

### 「パウロ、アグリッパ王に語る 3」

2016年09月30日

使徒言行録 26 章 19 節～23 節 「アグリッパ王よ、こういう次第で、私は天から示されたことに背かず、ダマスコにいる人々を初めとして、エルサレムの人々とユダヤ全土の人々、そして異邦人に対して、悔い改めて神に立ち帰り、悔い改めにふさわしい行いをするようにと伝えました。そのためにユダヤ人たちは、神殿の境内にいた私を捕らえて殺そうとしたのです。ところで、私は神からの助けを今日までいただいて、固く立ち、小さな者にも大きな者にも証しをしてきましたが、預言者たちやモーセが必ず起こると語ったこと以外には、何一つ述べていません。つまり私は、メシアが苦しみを受け、また、死者の中から最初に復活して、民にも異邦人にも光を語り告げることになると述べたのです。」

パウロはアグリッパ王に対し、神が先祖に約束した「死者からの復活」は主イエスにおいて、実現していると語った。パウロは自分が体験した、死者から復活した主イエスとの出会いの出来事を力説した。以前は、十字架で殺された敗北者イエスをメシア(キリスト)であると信じる信仰などあり得ない、許せないと、クリスチャンを迫害していた。彼らを捕縛するため、祭司長たちから権限を委任され、ダマスコに向かっていた。ところが、その途中、復活した主イエスに出会い、復活の証人として立てられ、罪の赦しを伝え、恵みを分かち合う宣教をするように使命を与えられた。

パウロは「アグリッパ王よ」と親しく呼びかけ、「こういう次第で、私は天から示されたことに背かず、ダマスコにいる人々を初めとして、エルサレムの人々とユダヤ全土の人々、そして異邦人に対して、悔い改めて神に立ち帰り、悔い改めにふさわしい行いをするようにと伝えました」と、神から与えられた宣教の使命に邁進し、ユダヤ人にも異邦の全ての人々にも悔い改めと悔い改めにふさわしい生き方をするように伝えてきた。そのような中で、ユダヤ人たちは、エルサレム神殿の境内にいた私に、異邦人を神殿に招き入れ、神殿を汚したと誹謗中傷し、捕らえて殺そうとした。私は神からの助けを今日までいただき、固く立ち、小さな者にも大きな者にも証しをしてきたが、預言者たちやモーセが必ず起こると語ったこと以外には、何一つ述べていない。パウロは、旧約聖書が告げる使信を語ってきただけで、ユダヤ教に反することは何もしていないと弁明している。

そして、パウロが最も宣教したいことは、「つまり私は、メシアが苦しみを受け、また、死者の中から最初に復活して、民にも異邦人にも光を語り告げることになると述べたのです」と語っているように、主イエスの十字架と復活に啓示された光であった。旧約聖書が伝えるメシアは罪を赦し、神に義(よし)とされるために、自らが苦しみを負い、殺された。しかし、神は彼を死から復活させ、ユダヤ人にも異邦人にも、復活の命に与る救いを与えるメシアとしてくださった。この福音のみを宣べ伝えてきた。

パウロは、この福音をローマ書 6 章 4 節 b～5 節に下記のように書いている。「それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。もし、わたしたちがキリストと一体になってその死の姿にあやかるとすれば、その復活の姿にもあやかれるでしょう」。パウロはキリストの十字架と共に罪に死に、キリストの復活にあやかり、新しい命に生きると書いている。

主イエスの十字架と復活を、教会は洗礼式において、罪に死に、神の命に生まれ変わる喜びの救いとして継承してきた。私も主イエスによる新生を心から感謝している。